

国土交通大臣賞

タイトル 榎木町通の町家

タイプ 持家一戸建

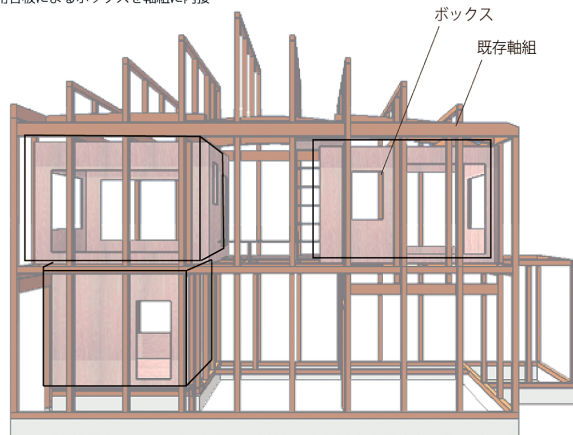
構造 在来木造

所在地	京都府京都市
築後年数	80年
施工期間	165日間
該当工事面積	98.7m ²
総工事床面積	98.7m ²
該当部分工事費	870万円
総工事費	870万円
居住者構成	15歳以上65歳未満：2人
設計会社	荒谷省午建築研究所 担当者：荒谷 省午
施工会社	(株) アムザ工務店 担当者：東 幸史



リフォーム後

構造用合板によるボックスを軸組に内接



既存のフレームに新しく箱を挿入する。 新旧の対比／脆弱な軸組の補強／独立した個室



＜リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など＞
＜目的＞

安易なリフォームを繰り返されてきた京町家に本来の魅力を取り戻しつつ、新たな建築技術によって現代の町家へと蘇らせることを目的とした。

＜設計・施工の工夫点＞

過去の改修による壁に隠されていた古い真壁を現し、入口から奥の坪庭までの通り土間を復活させ、かつての町家の姿を踏襲した。

また老朽化の激しい構造部は損傷の激しい部材は取替えとし、基礎は一部打ち直した。

脆弱な軸組については28mmの構造用合板による強固なボックスを内接させたことにより耐震性能の向上と室内環境確保の両立を図った。

＜施主の感想・満足度＞

ゆったりとした時間を過ごすことの楽しさをここで見出すことが出来、心にゆとりができた。

●性能向上の特性

耐震性能・温熱性能・室内空気環境

●特に配慮した事項

構造用合板によるボックスを作ることで耐力壁と水平剛性面を確保しながら新たな個室を作っている。

リフォーム前



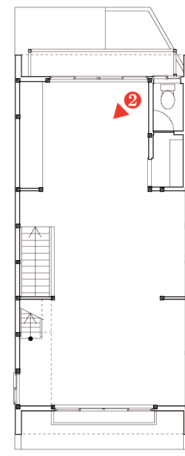
リフォーム後



＜リフォーム前＞



③
1階平面図



2階平面図

＜リフォーム後＞



②
①
1階平面図



2階平面図

N
S=1/200

リフォーム部位: 居室 台所 浴室 便所 洗面所 廊下 階段 玄関 エクステリア マンション共用部分

築約80年の京都の町家をリフォームした40代のご夫婦の住まいである。外観は町家が多く残る周囲にさりげなく溶け込んでいる。既存の屋根や側面の外壁はそのまま活かし、通りに面したファサードは1階窓に木格子をつけ、2階は既存の袖壁と軒先から窓の四周に漆喰壁を斜めにすりつけて、新鮮な表情をもたせている。

設計の考え方の中心は「箱」である。伝統的町家の軸組の中に3つの「箱」を導入することによって、空間的・意匠的な構成のメリハリと、構造補強とを獲得している。箱は28mmの構造用合板を組み合わせて家具的な精度で作られ、箱に接する柱梁に釘止めされて、耐力壁と水平剛性面となっている。施主は構造家で、古い架構の中に3つの箱をバランスよく配置することによって、「総持ち」の効果を得られるものと考えている。また、基礎の一部は打ち直し、痛んだ柱や梁は継いだり架け替えて補強している。

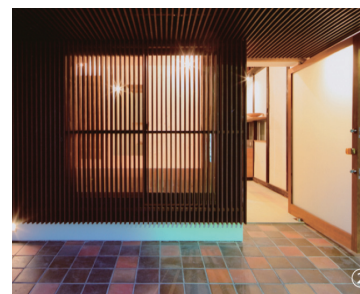
古い軸組架構を現した高さや長さのある空間は、新たな3つの箱の挿入によって新旧対比の面白さ、架構の魅力が引き出されている。閉じた箱としてのボックス空間とその間にある柱梁と板による空間構成は秀逸である。2階外周の押入部分は、温熱性能的なクッション（バッファー）となり、この部分で断熱気密性を確保している。

外壁の窓や屋根のトップライトは既存のものを利用しながら、側面に新たな窓を加えることで、採光と通風の改善が図られている。過去のリフォームでは隠されていた真壁を露出させ漆喰で仕上げ、1階では通り土間を再生して、キッチン、ダイニング、接客スペースとして使っている。土間の下には断熱材を入れ、断熱性能を改善している。ダイニング上部は吹抜となっていて、1階から小屋組まで空気がつながる。木の架構と構造用合板の染色仕上げ、漆喰の白、土間のモルタル、カウンターに使われた黒皮膜鉄

板といった素材や色の取り合わせが映える空間である。

箱には開口があげられ、入口や小屋組架構が見える窓や収納扉となっている。入口はあえて床から立ち上がりをつけて、跨いで入ようになっているが、これは扉の代わりに境界を示す仕掛けで、跨ぐという行為に意味をもたせている。若い住人は跨ぐ行為を楽しんで住みこなしているが、将来は床レベルまで開口を広げることも考えられよう。開口に引戸をつければ個室化したり、局所的な冷暖房を行うことも可能である。箱の開口は、外壁アルミサッシの窓と少しずらしたり、収納扉を和紙の色でアクセントにしたりと意匠的工夫がこらされている。開口からの視線の通り方や風景の切り取り方が、新鮮な空間体験を与える。コンパクトな箱の中は明るく、箱の外の架構が現れたほの暗い空間との対比が鮮やかである。

既存の活かせる所は極力活かし、居室を構造用合板の箱とすることでローコスト化を図りつつ、構造的、環境的性能を向上させて、家具もトータルに考えられた質の高いインテリアが隅々まで実現されている。同じ延床面積の新築マンションを買うのと同じ予算で、土地家屋購入とリフォームが出来たのであった。京都の町家のストックを活かして魅力的な現代の住まいにした、普遍的とまでは云えぬまでも十分に再現性のある解として、新しい手法を提示したものと云えよう。国土交通大臣賞にふさわしい創意と工夫がなされた作品である。



リフォーム前



リフォーム後

